

令和2年度 学校評価 (自己評価)

A: 当てはまる B: どちらかといえば当てはまる

(保護者回収率 88% 657名/全校生徒749名)

No.	評価項目	評価者	R1.12		R3.1			令和2年度	令和3年度 改善点	
			A	B	A	B				
1	【学習姿勢・学習規律】 中央中は、授業に臨む姿勢の向上と学習規律の確立に努めている。 *私は、1分前学習に積極的に参加し、手遊びをしない、聞く姿勢に気を付けるなど、学ぶ姿勢に気を付けて授業に参加した。	生徒	A	39	89	39	88	重点・改善点 *教科係中心の1分前学習、学習委員会のキャンペーンや勝負授業を利用し、学習姿勢を高めた。 *手遊びをせず、切り替えができ、仲間や先生の発言を聞く姿勢を大切にしている指導をした。	<input type="checkbox"/> 授業開始までの流れの再徹底 ・1分前学習が授業に食い込まないように、全校教科係会などで学習委員会から教科係に動きを教える。 ・授業の始まりと終わりの挨拶時に誰が前に立ち、何を話すか共通理解を図る。 <input type="checkbox"/> 勝負授業の意味の再確認 ・教師も生徒も勝負授業の意識と意味を再確認する。また仲間と授業を作り出す意識をもたせる指導を行っていく。 <input type="checkbox"/> 他クラスの生徒が互いに授業を見る機会 ・授業の一部分を参観したり、動画で撮影したりして、他のクラスの良さを学級に取り入れる機会を作る。	
			B	50		49				
		保護者	A	30	92	32	93			
			B	62		61				
		職員	A	38	98	39	98			自己評価 ○1分前学習が授業に食い込まないように学習委員会を通じて全員参加を目指しながら簡潔に終わることができるように行い方を広げることができた。 ○勝負授業や授業のストロングポイントを設定して、学級の強みを作り、生徒自身がクラスの強みを実感できた。 ●授業の始まりや終わりの挨拶など、誰が何を言ってどのような反省を言うか徹底しきれなかった。
			B	60		59				

No.	評価項目	評価者	R1.12		R3.1			令和2年度	令和3年度 改善点	
			A	B	A	B				
2	【学習集団づくり】 中央中は、話し合いや教え合い活動を通して、互いに高まり合う学習集団の育成に努めている。 *私は、授業中自分の考えを持ち、全体交流やSS活動で、相手に聞こえる声で話したり指差しをしたりして、その考えをうまく伝えられるよう努力した。	生徒	A	47	90	46	85	重点・改善点 *自分の考えを持たせ、それを交流できるように全体交流やSS活動を積極的に取り入れた。 *資料を指し示しながら話すなど、相手を意識して聞き手に伝わるように発表させた。 *SS活動のねらい①自分の出場がある ②対話的深い学び	<input type="checkbox"/> 自発的にできる雰囲気づくり ・授業内外で教師から生徒への認めや生徒同士の認め、生徒個人による認め(自己認識)を行っていく。 ・学習の毎月の「一点突破」は学習委員会から発信する。スタート時の4・5月は全校共通とするが、学年で状況や成長度合いも様々なので、毎月の「一点突破」は学年で異なる形をとる。 ・勝負授業と一点突破のつながりがもてるように、学習委員会中心に発信していく。 <input type="checkbox"/> 職員の授業公開について ・4～7月期間は導入に特化した公開授業、8～12月期間はタブレット活用の公開授業を行う(教科部で1回)など、あらかじめ1年間を見据えて計画をたてる。	
			B	43		39				
		保護者	A	29	91	32	94			
			B	62		62				
		職員	A	40	90	27	93			自己評価 ○コロナ禍ではあるが、できる範囲でSS活動を位置づけ実践することができた。 ●各教科部などで、導入や評価の時間、SS活動などの実践交流を多くしていきたい。
			B	50		66				

No.	評価項目	評価者	R1.12		R3.1			令和2年度	令和3年度 改善点	
			A	B	A	B				
3	【授業の充実】 中央中は、「分かった」「できた」と実感できる授業づくりに努めている。 *私は、「分かった」「できた」と感じる授業ができた。	生徒	A	48	91	48	90	重点・改善点 *授業の導入を大切に、1時間の課題や見通しをもって、主体的に学習活動ができるよう工夫改善をした。 *1時間のまとめで、明らかになったことやできるようになったことを確認した(確認問題の実施)。	<input type="checkbox"/> 定期的な教科部会 ・テスト審議や成績確認以外で、授業実践の交流を目的とした教科部会を行う。 ・ICTの活用 ・SS交流の仕方、導入の工夫 ・評価の仕方(評価シートなど) <input type="checkbox"/> 1時間の授業評価を設定 ・評価シート、まとめを書く時間、まとめを共有する時間など、1時間毎に生徒が学習したことを実感できる時間や場の確保を必ずとる。	
			B	43		42				
		保護者	A	24	85	27	88			
			B	61		61				
		職員	A	33	95	32	98			自己評価 ○授業公開や各研修の指導案づくりなど、生徒が必然性をもつ課題を考え実践できた。 ●終末での自己評価など、短縮授業であっても時間を確保できるようにしていきたい。
			B	62		66				

令和2年度 学校評価 (自己評価)

A: 当てはまる B: どちらかといえば当てはまる

(保護者回収率 88%)

生き方指導部

No.	評価項目	評価者	R1.12	R3.1		令和2年度	令和3年度 改善点		
4	【道徳教育】 中央中は、日常生活や行事、道徳の授業を通して、他を思いやる心を育てている。 * 私は、日常生活やキャンペーンを通して、仲間のよさを認め、仲間を大切にすることができた。	生徒	A	61	56	93	重点・改善点 * いじめ防止 2本柱の①「自己肯定感と自他を認める心を育てる」を担うよう、日常生活や行事で仲間のよさに目を向ける取組を、意図的継続的に行った。 * 本人によさを伝たり仲間のよさを交流したりして、自他のよさを認めるようにした。	□ 計画的な道徳の授業実践 ・教科書を活用した授業を中心に行う。学年内で学習内容を揃える。 ・道徳ノートを活用し、振り返りや考えをまとめ、発表や通信等で紹介する。 □ 「SS活動マニュアル 道徳ver.」の積極的活用 (例) 中心発問、補助発問のときの意見交流や議論 □ SSTの計画的な実施 ・各学年で行うSSTの内容を15個程リストアップし、学年で指導する内容ががぶらないようにする。 ・来年度のプログラムは舟橋先生が作成中。次の職員会提案。 □ 各学級良さ見つけを今後も継続的に行う。	
			B	34	37				
		保護者	A	28	31	91			
			B	60	60				
		職員	A	43	32	100			自己評価 ○ 互いの良さを学級通信等を活用して紹介することができた。道徳ノートも見て、紹介することを継続することができた。 ○ 自己・他者理解を大切に考えた考え合う時間をもつことができた。 ● 道徳授業の進め方を学び合ったり交流したりするとよい。
			B	57	68				

特活指導部

No.	評価項目	評価者	R1.12	R3.1		令和2年度	令和3年度 改善点		
5	【特別活動】 中央中は、生徒会活動が活発に行われ、自主的な活動を進めている。 * 私たちの学級は、委員会やクラス長会の取組、係活動が活発に行われ、生活の向上に努めた。	生徒	A	56	58	93	重点・改善点 * 生徒が中心になってキャンペーンを行い、屋の放送(テレビ放送)や朝集會等を利用して個や学級のよさを紹介した。 * 中央中ギネスや、中央中レクなど、学級が楽しめる取組を工夫し実践した。	□ 計画的な各月の重点活動の実施 委員会活動(キャンペーン)の実施月が重ならないよう、2か月前には職員会提案する。生徒会担当が見直しをもって進める。 □ 専門委員選出の変更 ・委員長がいるクラスは、委員長とは別に委員を設けてもよい。委員長は、班長、教科係、学級係を兼務する。 ・合唱委員は、募集しない。合唱班はなくして保健班とする。合唱発表会が開催できる場合は、合唱プロジェクトなどをつくる。 □ 行事の変更 ・体育祭は、スポーツの日として学年ごとに2時間で行う。事前取組は生徒会が運営し、各学年のクラス長会が2種目を決め当日の運営も行う。 ・生徒会の時間の班長会を積極的に行うことで、班活動を充実させたり、班長の動きを確認したりして班長のリーダー指導をしていく。	
			B	35	35				
		保護者	A	33	38	94			
			B	58	56				
		職員	A	55	55	94			自己評価 ○ 中央中ギネスや中央中レクは、全校的な取組としてうまく位置づかせることができた。 ○ 生活向上委員会主催のあいさつキャンペーンでは、楽しく取り組み、どの学年のあいさつも活発にすることができた。 ● 月の重点活動では、何月に、どの委員会が動くのかを1年間を見直しをもって取り組ませるようにしていく。
			B	40	39				

特活指導部

No.	評価項目	評価者	R1.12	R3.1		令和2年度	令和3年度 改善点		
6	【学級集団づくり】 中央中は、一人一人が所属感・存在感をもてる学級集団づくりに努めている。 * 私は、学級みんなで協力して何かをやりとげ、うれしかったことがある。	生徒	A	59	47	83	重点・改善点 * 学級・学年の取組で生徒が中心になって活動した成果を共有したり、日常生活の一人一役を通して仲間のために活動したことを積極的に認めたりして、充実感や達成感をもてるよう指導をした。	□ ねらいを明確にした重点活動 ・学年会でどんな動きをつくり、どんな力をつけさせたいのかを各学年の特活担当が提案をする。 □ 活動の価値付け ・放送でよい姿を紹介する時には、行動の事実だけでなく、何がよかったのかやなぜよかったのかを価値づけた放送をして全校に広める。 ・よいこと見つけを全校で実施する。1年間を5つに分け、それぞれの期間に合わせたよいこと見つけをする。 (例) 4、5月…誰に書いてもよい。6、7月…決めた仲間を書く。9、10月…場面(掃除、給食、授業、係活動など)を設定する。11、12月…行動(思いやり、やる気、コツコツ、優しさなど)を設定する。1、2、3月…今までに書いていない人は、関わる機会が少なかった人に書く。	
			B	30	36				
		保護者	A	34	30	90			
			B	56	60				
		職員	A	33	27	100			自己評価 ○ 学年、学級、班などで独自活動を行うことで、所属感を高めることができた。 ● 仲間の頑張りを積極的に認めていく場が少なかった。 ● 独自活動を行う中でさらに集団が高まるようにしていく。
			B	67	73				

令和2年度 学校評価（自己評価）

A:当てはまる B:どちらかといえば当てはまる

(保護者回収率 88%)

No.	評価項目	評価者	R1.12	R3.1	令和2年度	令和3年度 改善点	
7	【生活習慣】 中央中の生徒は、ルールや時間を守るなど基本的な生活習慣が身に付いている。 *私は、学校のルールを守り、時間を意識したけじめある生活ができた。	生徒	A 55	93	57	92	<p>重点・改善点</p> <ul style="list-style-type: none"> *ノーチャイムでの生活で、教師が率先して時間を守った。 *ルールを守った生活が安心安全な学校生活の基本であることを教え、自治的な活動ができるよう指導した。 *秩序は保ちつつ、現代のニーズにあった適切な指導ができるよう校則を見直した。(マフラー、手袋、靴下、お守り) <p>自己評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ○掃除終了時のチャイムは、時間いっぱいまで取り組む姿につながった。 ○マフラーや手袋の校則の見直し、キーホルダーの約束など現代のニーズにあった対応を行うことができた。 ●登下校時のルールやマナーが悪いことに関して、なかなか改善が見られなかった。
			B 38				
		保護者	A 32	89	36	90	
			B 57		54		
		職員	A 20	93	32	98	
			B 73		66		
8	【いじめ防止】 中央中は、いじめや問題行動の未然防止に努めている。 *私は、相手を思いやり、人を傷つける言葉や言ったり、嫌な気分させる行動をしたりしなかった。	生徒	A 42	88	50	89	<p>重点・改善点</p> <ul style="list-style-type: none"> *普段から相談しやすい関係を作るとともに、生徒の変容にアンテナを高くして接した。 ①定期的な(持ち帰り・記名式)いじめアンケートの実施と迅速な対応(年5回実施うち1回は無記名) ②教育相談を位置づけ個々の生徒との面談時間確保 ③「人権意識を高める活動」(毎月第1月曜朝活動)の継続実施 ④ひびきあい集会に向けての活動 <ul style="list-style-type: none"> ・標語コンクール ・講演会 ・SST(2月以降に実施) <p>自己評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ○外部講師の講演は、生徒一人一人の心に訴えかけるものがあり、生徒の感想を見ても、有意義だった。 ●講演が単発で終わってしまった。 ○毎月1回の人権意識を養う活動は、生徒も教員も人権について考える機会となった。 ○SSTやいじめについて考える時間や学年集会を使った人権についての正しい知識を学ぶ機会もあってよかった。
			B 46				
		保護者	A 29	88	26	81	
			B 59		55		
		職員	A 42	93	45	100	
			B 51		55		
9	【規範意識】 中央中は、生徒の命と健康を守る教育に努めている。 *私は、命を守る訓練に真剣に取り組む、交通ルール・マナーを守って(ヘルメット着用など)登下校ができた。	生徒	A 79	97	78	96	<p>重点・改善点</p> <ul style="list-style-type: none"> *登下校指導、集会・放送を通しての交通安全指導を継続して行った。 *虐待対応研修、SOS受け止め方研修を実施。 *食育の観点で、給食担当や給食委員会から好き嫌いをなく食べることを目標に残菜0の日を設けた。 <p>自己評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ○命を守る訓練(シェイクアウト)を計画的に行うことができた。 ○下校指導を継続的に行うことができた。 ●登下校時のルールやマナーが悪いことに関して、なかなか改善が見られなかった。 ●下校時の送迎に向上は見られたが、登校時に北側駐車場に乗り入れる車があり、事故になりそうな場面もあった。
			B 18				
		保護者	A 29	88	26	79	
			B 59		53		
		職員	A 42	100	43	98	
			B 58		56		

令和2年度 学校評価（自己評価）

A:当てはまる B:どちらかといえば当てはまる（%）

No.	評価項目	評価者	R1.12		R3.1			令和2年度	令和3年度 改善点
			A	B	A	B			
10	中央中は、特別支援教育について体制を整え、個に応じた指導をしている。	職員	A	38	81	41	91	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援学級在籍生徒の支援内容を共有し、授業などで個に応じた指導援助をした。 通常学級に在籍する支援を要する生徒の支援内容を共有し、個に応じた指導援助をした。 	<ul style="list-style-type: none"> 年度はじめ、途中に支援を要する生徒の支援計画や内容を確認する機会を設ける。 通常学級の支援を必要とする生徒について支援体制を充実できるとよい。（支援員の配置など） 支援を必要とする生徒への支援方法を担任・教科担任で共通理解しておく。（新年度初めに会をもつ）
			B	43		50			

No.	評価項目	評価者	R1.12		R3.1			令和2年度	令和3年度 改善点
			A	B	A	B			
10 ②	お子様は、楽しく学校に通っている。 * 私は、学校に行くのは楽しいと思う。	生徒	A	47	83	46	80	<ul style="list-style-type: none"> 行事等はなかったが、生徒会の企画により、学級で楽しむことが出来る活動が充実していた。 各学級で工夫した取り組みができるとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会活動に積極的に参加したり、学級独自の楽しみ方を考えたり、充実感が感じられる仲間関係づくりの工夫が必要。 楽しくないと思っている生徒（1をつけた生徒）の把握をし、普段から気にかけておく。
			B	36		34			
		保護者	A	47	91	49	89		
			B	44		40			

No.	評価項目	評価者	R1.12		R3.1			令和2年度	令和3年度 改善点
			A	B	A	B			
11	【自己肯定感】 中央中職員は、一人一人の学習や生活の様子を見届け、子どもを認め、ほめ、励まし、よさを伸ばそうとしている。 * 自分にはよいところがあると思う。	生徒	A	27	72	26	67	<ul style="list-style-type: none"> すべての生徒に自己肯定感を持たせられるよう、「よさ見つけ」を多方面から全校生徒を対象に行う。 中央中いいねカード 生徒会、学年・学級のじつに応じた掲示、通信など 職員間で生徒のよさ・頑張りの積極的な交流 	<ul style="list-style-type: none"> 「いいね！カード」の継続 渡した生徒が分かるように、学年ごとに名簿を作成し、書いた人が名簿に○と日にちを記入する。 職員のノルマは設定しない。 パソコンで入力してそれをプリントアウトと、手書きを併用する。 屋の放送を有効活用し、生徒に紹介する。 * フリーの先生方や教科担任が自分のクラス以外の生徒に書けるため、この取り組みはメリットが大きい。また、クラス全体で紹介することで、喜びを得る生徒も多かった。
			B	45		41			
		保護者	A	31	85	32	87		
			B	54		55			
		職員	A	45	97	34	100		
			B	52		66			

No.	評価項目	評価者	R1.12		R3.1			令和2年度	令和3年度 改善点
			A	B	A	B			
12	中央中職員は、保護者や地域の意見・願いを聞く姿勢をもち、誠実に対応している。	保護者	A	47	83	34	89	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の様子を保護者に伝えていくことを大切にし、意見や願いをしっかりと聞き、正すところは正し、検討することは検討する。できないことは丁寧に説明をするなど誠実に対応をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の様子を保護者に伝えていくことを大切にする。 意見や願いをしっかりと聞き、正すところは正し、検討することは検討する。できないことは丁寧に説明をする。
			B	36		55			
		職員	A	48	88	43	98		
			B	40		55			